
うすべにあらし（上）

桜アサノ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

うすべにあらし（上）

【Nコード】

N3778S

【作者名】

桜アサノ

【あらすじ】

それは、本当に偶然で、起こった出来事。

（前書き）

ファンタジーというよりホラーかとも思いましたが。怖いというよりは不思議系の話なんじゃないかと思っています。

その嵐は、薄紅色をしていた。

お願いされると断れないのは、本当に直した方がいいところだとい
うのは、わかつているのだけれど。

「他に頼めないの、お願い、預かって！」
頭を下げた頼みこまれて。

そうして今、バスケットの中から、真ん丸な瞳が、私を見上げてい
た。

さくら、と名付けられているというその猫は、首にピンク色の首輪
をしていて、澄ました顔で部屋の中を見回した。

まるで、品定めでもしているかのように、あちらこちらを見分した
後、決めた、とでも言うように、ゆっくりと歩いてゆき、絨毯の上
に丸くなる。

その姿勢のまま、文句でもあるか、という瞳を向けてきて。

「まあ、おとなしくしていれば、いい」

私は、さくらが落ち着いたのを確認すると、やりかけの仕事へと戻
った。

今日は休日。

とはいえ、持ち帰ってしまった仕事は、待つてはくれない。

外は、曇りのち雨、という予報がおそらく当たりだろうと思われる、
薄暗さ。

新聞やテレビが、桜が見頃だと一斉に報じていたように思うが、そ
んな様を見る機会もないまま、この後降ると思われる雨に、打たれ

て今年の桜花は終わるのだろう。
時折、窓をガタガタといわせる強い風に気を取られる以外は、室内は酷く静かだった。

「にゃあ」

微かな声がして、顔を上げた。

「……さくら？」

さくらは、美形な顔立ちだ。

これが猫の世界でどう判別されるかは知らないが、人の目で見る限り、大きな瞳、形の良い鼻、つんと立った耳。どれをとっても、申し分ないと思われた。

そんな顔立ちの猫が、少し掠れたようなハスキーな声で鳴く。

「腹でも減る時間か？」

傍に寄ってきて、するりと頭を、私のふくらはぎあたりに擦り付け。そしてまた、大きな瞳が、此方を見上げる。

「何？」

相手の言わんとする事がわからず、首を傾げると。

焦れたようにまた、にゃあと、掠れた声がした。

「猫の言葉はわからない」

お手上げだと、そう言えば、さくらは、しょうがないなという表情を浮かべる。

猫がこんなに表情豊かな生き物だとは、知らなかった。

つい、つい、と。

足音も立てずに、歩き出したさくらは、まるで、ついてこい、とでも言うように振り返る。

そしてまた、あの掠れた声を出した。

立ち上がると、さくらは、私がついて来るものと決めつけたように、迷わずまっすぐ歩き出す。

預かった手前、勝手に出て行った拳句、行方不明です、等という訳にもいくまい。

私は、あきらめて、さくらについて部屋を出た。

よく知る道を歩いているかのように、歩く猫。

そして、ついていく人間が一人。

傍から見れば滑稽な姿だったかもしれない。

背筋を伸ばしたさくらの歩く姿は、なかなか綺麗だった。

気が付けば、曇って薄暗かった筈の空は、その合間に蒼を見せ始めている。

傘を持ってくるのを忘れていたが、この分なら、少しくらいは天気はもつのだろう。

とはいえ、何処まで行くつもりなのか、さくらは、振り返りもせず、まっすぐ、目指すところでもあるかのように進んでいく。

自宅近く、まさか私も迷ったりする事などあるまい、と思っていたのだが。

街並みが、見知ったものとは変わってきて、少しだけ不安を覚えた。

「さくら」

つい、呼びかけてしまったのは、不安故。

さくらの瞳が、つ、と此方を見た。

何びびっているの？ とでも言いたげに。

「……にああ」

いいからそのまま来い、とでも言うように、一言だけ声を上げて。

そしてまた、さくらは、顔を前に向けてしまった。

諦めて私も、歩き出す。

猫は気まぐれと言うが、しばらくはこれに付き合っしかないようだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3778s/>

うすべにあらし（上）

2011年4月30日20時21分発行